

話すこと 2

表現が出てこない(1)

全 … 学級全体に対する指導や支援

個 … 個人に対する指導や支援

表現への慣れ親しみが足りない場合

①歌やチャンツを活用し、表現に慣れ親しませる。全・個

歌やチャンツで繰り返し表現を聞かせる。聞き慣れてきたら、児童の実態に合わせてスピードを調整し、一緒に声を出させる。音声教材に合わせにくい場合は、教員の手拍子に合わせて歌やチャンツを歌わせてもよい。更に慣れてきたら、チャンツの歌詞を児童が話したいことに置き換えて歌わせる。このように、段階を踏みながら歌やチャンツを活用し、表現に慣れ親しませていく。

②ゲーム的活動を通して単元で扱う表現に慣れ親しませる。全

短時間のゲーム的活動を行い、表現を繰り返し聞かせたり、言わせたりする。

【例】キーフレーズ・ゲーム／デスティニー・ゲーム／ラッキー・カード・ゲーム
コマンド・ゲーム（位置を表す語句）／バズ・ゲーム（数字や日付）

③短いフレーズに区切って練習する。全

一文が長くなると、聞き取って繰り返したり、覚えたりすることが難しくなることが考えられる。一文を短いフレーズに区切って聞かせたり、言わせたりしながら徐々にフレーズを付け足し、スモールステップで表現に慣れ親しませていく。リズム良く話すことを意識させる。

【例】I'm good at ~ing. が定着しない場合

(1) cooking, playing ~, doing ~ 等を、ピクチャーカードを見せながら、聞かせたり、言わせたりする。

(2) good at cooking, good at playing ~, good at doing ~ 等を聞かせたり、言わせたりする。

(3) I'm good at cooking. I'm good at playing~. I'm good at doing~.等を、歌やチャンツで聞かせたり、ゲーム的活動やインタビュー活動で言わせたりする。

④文字を示しながら、英文を聞かせる。全・個

一文が長くなると、音声だけでは表現を覚えることが難しくなることが考えられる。文字を示しながら、文を単語やフレーズに区切って聞かせたり、言わせたりする。音声と文字を関連させながら慣れ親しませていくことで、文字をヒントに表現を思い出せるようにする。

⑤インタビュー活動を取り入れる。全

表現を使って話す機会を増やすために、「誕生日カレンダーを作るために、友達の誕生日を尋ねる」のように、児童が目的を持って行えるようなインタビュー活動を取り入れる。「教員やALTにもインタビューする」等の条件を付けると、児童に表現が定着しているか確認する場にもなる。